

# 上越市の現況報告

上越市企画・地域振興部長 野澤 朗

企画・地域振興部長の野澤でございます。よろしくお願いたします。この機会に、高田と直江津を中心に、上越市の現在の取組につきまして簡単に話させていただきます。

高田地区におきましては、町屋を中心としたまちづくりが少しずつ定着してまいりました。今井染物屋、金津桶屋、小妻屋という町屋がございますが、これらがお客さまを招き入れることに繋がってきております。小妻屋につきましては、そのままの姿を出来るだけ活かした形で新しい公共施設にしていこうと、高田に今まで無かった街中の集会場として設計しております。来年には着工いたしますが、町屋、いわゆる普通のお宅を活かした公共施設として話題になるのではと思っております。高田にお越しの際に、お立ち寄りいただける場所が一つ増えるのではなにかと思っております。

このようなことも含め、十三区の個性豊かな特性を活かす仕掛けの一つとして、フィルム・コミッションという映画等を誘致する組織も出来ました。このほど、その第一号の映画が撮影され、松川副会長も医師の役で出演されています。上映の際は、是非ご覧いただきたいと思えます。フィルム・コミッションへは、現在もかなりの数のご要望をいただいておりますので、そのうちにいろいろな映画に、我が上越の場面が使われるのではないかと期待しております。皆さんも是非楽しみにいただきたいと思います。お返します。

直江津地区につきましては、二十五年間で三十九パーセントという人口減少率となっております。その割合は大島区、牧区とほぼ同じであります。高齢化率も二十八パーセントと、はつきり申し上げて過疎地帯でございます。これまででは中心

市街地の活性化となりますと、商店をどうするかといった話でありましたが、そのような状況ではなくなりました。このことにつきましては、やはりより多くの人から住んでいただくための仕掛けが、非常に重要となっております。

新幹線が開通いたしますと、直江津の駅性格も変わってまいります。我々といたしましても、第三セクターの鉄道を維持していかねければならないこともございまして、このほど直江津の駅前開発に本格的に乗り出す計画づくりを終えたところであります。直江津図書館と社会教育館が、水族館の近く、直江津中学校の近くにあつたのをご記憶の方もおられると思います。これを出来れば駅前に公共施設として移転、新築したいと調整に入っております。私どもといたしましては、八年後の新幹線開通時までに直江津の街の方向性を明確にし、新幹線開通後に対応できるような街にしていきたいと思っております。

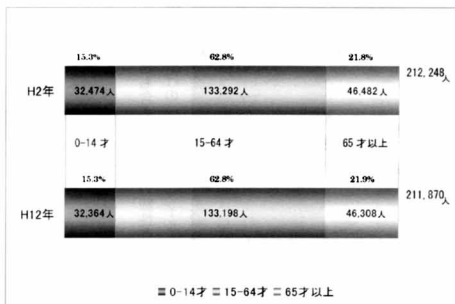


ります。

それから最後までございますが、この度上越市民歌を全面的に見直すことになり、現在歌詞を募集しております。現在の市民歌は、高田は、直江津はといった地名にまつわる歌詞となっておりまして、同じように十三区の地名を入れると非常に長くなるということから、今回の募集ルールでは、今の歌のように特定の地名を歌い込まずに、もう少し主体的な上越、ふるさとを想う歌にしようということになりました。補作詞者として杉みき子先生をお願いしてございますが、作詞者としてお名前が永遠に残ることでありますので、是非皆様からも応募いただければと、本日PRさせていただきます。

まだ確定値ではございませんが、昨年の国勢調査で上越市の人口は二〇八、〇〇〇人となりました。平成十二年からの減少数はそれでも三、八〇〇人に止まっております。皆様方のおかげがないふるさと・上越が今後も引き続き発展しますよう、市長を先頭に職員一同努力してまいりますので、今後も皆様からのご支援よろしく願います。

簡単ではございますが、現在の上越市の状況をお話しさせていただきました。



上越市の年齢別人口の推移

	人口 (人)	世帯数 (世帯)	平均世帯人数
昭和 55 年	216,320	57,390	3.77
昭和 60 年	216,348	58,703	3.69
平成 2 年	212,248	59,662	3.56
平成 7 年	212,060	63,402	3.34
平成 12 年	211,870	67,654	3.13
平成 17 年	208,083	69,108	3.01

(速報値)

人口と世帯数の推移